

令和4年度 学校評価計画書

							石川県立輪島高等学校	
重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備 考	
1 学びがあり進路実現できる学校	① ICTを活用した授業を推進し、探究型授業の充実を図る。	教務課 各教科	教員へのタブレット配付、各教室のプロジェクター設置、Wifi接続等、校内のICT環境は充実してきた。加えてGIGAスクール構想によって生徒個々にChromeBookが配付され、新しい取り組みが求められている。	【 努力指標 】 ICT機器を活用した探究型の授業を新しく開発することができる。	授業でICT機器を活用した新たな探究型の学習を取り入れた教員の割合が A : 80%以上 B : 60%以上 C : 30%以上 D : 30%未満	C以下の場合は学年会、教科で指導体制を検討する。	年2回(9月・1月)の教員アンケートで評価	
	② 「コア輪島」「夢道場」などの活動を通して、生徒が主体的かつ発展的に学ぶ姿勢を育成する。	各学年 進路指導課	学習に対して受け身な生徒が多い上、与えられた課題をこなすことだけに力を注いでいる生徒がいる。進路と結びつけた学習を意識し、「できる」感覚を身につけさせ、学ぶ意欲と学力の向上に結びつけたい。	【 成果指標 】 模擬試験で英国数総合の平均偏差値45～50の層にいる生徒が偏 差値50を超えることができる。	模擬試験で英国数総合の平均偏差値45～50の層にいる生徒が偏差値50を超えることができた割合が A : 50%以上 B : 30%以上 C : 10%以上 D : 10%未満	C以下の場合は学年会、教科で指導体制を検討する。	7月と1月の模擬試験の結果を比較して評価	
	③ 教員の受験科目指導力を高め、3年間を見通した組織的な教科指導と進路指導の実践を図る。	進路指導課 各教科	単年で受け持つ学年や課が変わることが多く、指導のつながりが薄い。コースごとの指導方法や、受験指導等のノウハウを共有し、3年間を見通した指導ができる体制を構築する必要がある。	【 成果指標 】 各教科での研修や教員相互の情報共有により、各学年の学びを繋げ蓄積していく。	シラバスや評価の観点等の活用と、教員相互の情報共有により、3年間を見通した指導ができた教員の割合が A : 80%以上 B : 70%以上 C : 60%以上 D : 60%未満	C以下の場合は進路及び各教科で取組を検討する。	年2回(9月・1月)の教員アンケートで評価	

							石川県立輪島高等学校	
重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備 考	
2 人間力を向上できる学校	① 「部活道」などの課外活動を通して、主体的で能動的に行動できる生徒を育成する。	生徒会課 各部顧問	「部活道」では制限が徐々に緩和され、通常通り活動できる機会が増えてきた。その中で、生徒が自ら考え、自発的に活動するための指導者の工夫が求められる。	【 満足度指標 】 自分たちで考え協働する場面を積極的に取り入れることにより生徒の主体性が高まる。	自ら考え行動する場面を積極的に取り入れることにより、生徒の主体性が高まったと感じる顧問の割合が A : 90%以上 B : 70%以上 C : 50%以上 D : 50%未満	C以下の場合、指導方法を見直す。	年2回(9月・1月)の教員アンケートで評価	
	② 学校行事を通して、よりよい人間関係を築き他者を思いやる心を育成する。	生徒会課 相談課 総務課	素直に指示に従うことができる真面目さが多くの生徒に見られる。一方で、自己肯定感が低い生徒が多いため、主体的に行動することを躊躇する場面が見られる。	【 成果指標 】 学校生活の中で、自己有用感や自己肯定感を育む場面を設定し、いじめを未然防止する。	自己有用感や自己肯定感を高めることを意図して計画・実施された行事や取組の回数が A : 10件以上 B : 7件以上 C : 5件以上 D : 5件未満	C以下の場合は取組の内容を再検討する。	計画・実施された行事や取組の回数で評価	
	③ 生徒一人ひとりが地域と関わる中で、積極的に自己研鑽する姿勢を育成する。	総務課 全職員	コロナ禍により地域と関わる行事等が制限されてきたが、ビジネスコースの取組を中心に取組が再開されてきている。	【 成果指標 】 授業や行事の見直しを進めながら生徒が地域と関わる機会を設定し直していく。	生徒が地域と関わる授業の取組や行事のうち、今年度再開あるいは新規に実施された件数が A : 7件以上 B : 5件以上 C : 3件以上 D : 2件以下	C以下の場合は、指導方法を見直す。	再開された取組や行事の件数で評価	

							石川県立輪島高等学校	
重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備 考	
3 地域と共に成長できる学校	① 「WJII活」を中心に探究的地域学習を充実させ、地域貢献意識の向上と実践力の育成を図る。	各学年	「WJII活」で地域に対する興味関心や課題解決に向けた意欲は高まっているが、地域活性化のために自分の力が実際に役に立つという実感をもつには至っていない。	【満足度指標】 「WJII活」を通して、地域のために自分にも何かができるという実感が生徒がもつ。	「WJII活」を通して、地域のために何かできるという意識が高まったと感じている生徒が A：80%以上 B：60%以上 C：40%以上 D：40%未満	C以下の場合は探究学習の内容を再検討する。	2月に1・2年生対象に行うアンケートで評価	
	② 輪島市主導の「高校魅力化プロジェクト」と連携し、将来にわたり地域を支える人材を育成する。	管理職 各学年	立ち上げたばかりでまだまだ認知度が低く、内容についても手探り状態である。学校側の要望を的確に伝え協働する体制を整える必要がある。	【努力指標】 輪島市学習センターと連携を図り、学習支援や探究活動を有意義なものにする。	市との連携を通して、学習や探究活動に主体的に取り組む生徒が増えたと感じる教員の割合が A：50%以上 B：30%以上 C：20%以上 D：20%未満	C以下の場合は取組の内容を再検討する。	8月と1月に、管理職がアンケートを実施し評価	
	③ 小中学校との生徒間交流事業や教員研修をできることから再開し、「オール輪島」で生徒を育てる。	総務課 教務課 管理職	小中校連携しての研修を企画すべく2年前に委員会を立ち上げたものの、コロナの影響で進捗していない。できることから企画し直す必要がある。	【努力指標】 授業参観に積極的に足を運ぶ等、高校の教員自ら小中学校との関わりを持つよう努める。	校種間での相互授業参観や教科間交流、ICT機器の活用研修会等に参加した教員が A：90%以上 B：70%以上 C：50%以上 D：50%未満	C以下の場合は取組を見直す。	自己申告を管理職が集計し評価	

							石川県立輪島高等学校	
重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備 考	
4 多忙化改善を積極的に実現できる学校	① コロナ禍で制限された行事の規模、再開、廃止を検討し、業務の効率化と最適化を図る。	管理職 総務課	コロナ対策で各種行事等が中止・縮小されたことにより、真に必要であった業務とそうでなかった業務の可視化が進んでいる。	【成果指標】 前例踏襲でなく、一つ一つの行事についてその意義を再考し、適切に廃止、縮小化を図る。	廃止あるいは規模の適切な縮小化を図ることのできた行事等の数が A：6件以上 B：5件以上 C：4件以上 D：3件以下	D以下の場合は取組を見直す。	適正化された行事等の数で評価。	
	② 教員の意識改革と業務改善を図り、ワークライフバランスの実現を果たす。	管理職 総務課	教員の意識改革が進み、勤務時間外労働時間が減少している。一部の教員への負担の偏りが見られるため、業務の平準化をさらに推進する必要がある。	【努力指標】 チームとして働く意識を向上させ綿密に連絡を取り合うことで業務の平準化をさらに推進する。	教員一人あたりの月平均時間外勤務時間が昨年度より A：10%以上減少した B：5%以上減少した C：3%以上減少した D：3%未満の減少	C以下の場合、評価結果を分析し、対策を検討する。	毎月の勤務時間調査で評価	
	③ タイムマネージメントを生徒に意識させる学習指導、課外活動指導の確立を図る。	生徒指導課 各学年	中学校の指導の成果により規律正しい生徒の入学が増えていることに加え、高校の指導も行き届いてきて、不注意による遅刻数が少なくなり、授業のベル開始も定着してきている。	【成果指標】 生徒のタイムマネージメント意識が向上し、自身の不注意による遅刻をなくす。	生徒の不注意による遅刻「0」の日数が年間を通して A：80日以上 B：70日以上 C：60日以上 D：60日未満	C以下の場合、評価結果を分析し、対策を検討する。	生徒指導課による遅刻集計で評価	